
異世界に落ちた霊能力者

天空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界に落ちた霊能力者

【Nコード】

N8210L

【作者名】

天空

【あらすじ】

GS美神のオリキャラが横島を守る為に異界へ

その過程でアカシックレコードに接触、異世界の知識を得て

着いた世界はネギまの世界

彼はそこで何を得るのか…

戦いに巻き込まれながら大切なもの探していく

プロローグ

そこには、隕石が落ちたような地面、根元から折れ倒れた木々
その光景の中心に、不適な笑みを浮かべ、背中に翼が生えた男と
全身に傷を負った満身創痍の青年が居た

「はあ…なんで、忠夫を狙う」

青年は男に問う

「知れたこと、魔族因子を宿し、文珠を操り、何より魔神をも倒した人間を

生かしては、おけないのですよ人間
死にたくなければ、横島の居場所を」

男は笑いを浮かべ、手に神力を溜め始めた

「はっ確かに、このままじゃやばいけどな
はいそうですか、仲間を売る訳にはいけないんだわ
たとえ、ここで俺が朽ち果てようともな」

「交渉決裂ですね、残念です
あの男以外には死んで欲しくはないのですが
せめて、苦しまずに殺してあげましょう」

男は呆れながら青年問い答え、さらに力を溜め始め、青年に近づいていく

「はあ…殺すなら一瞬で殺ってくれ、はあ…外さないように至近距

離から」

「わかりました、最後の頼みです零距离で撃ってあげましょう」

男は青年の頼みを聞き、距離をつめた

「最後に言い残す事はありませんか、お仲間に伝えてあげましょう」

「忠夫に生きると伝えてくれ」

男は青年の言葉を聴き、笑い始めた

「あははははは

笑えてきますよ

次に死にゆく者に生きるとは

伝えても意味がありませんよ

あはははは

青年は失笑を浮かべながら、ビー玉大の玉を二つ取り出した

「たしかにな、お前に頼んでも意味がない

俺と一緒に消えるんだからな」

青年の持つている玉が発光し始め、男はそれに気づくところで初めて驚愕に表情を浮かべた

「あなたが文珠を持っているのです

彼と別れるときに全部、渡していたではないですか

なぜ、今まで使わなかったのですか

使うタイミングはいくらでも、あったではないですか

それに二つも使えるのです
文珠使いにしか複数は使えないはずです」

「文珠は全部、渡すふりして二つだけ残しただよ
今使うのは、止めを刺すために油断して近づくのを待った
二つ使えるのは企業秘密だ
じゃあな、もう会うこともないだろう」

青年は男に文珠を叩きつけ、効果を発動させた
文珠を中心にまばゆい光が発生した

「や、やめろおおお・・・」

光が収まった後、男と青年はそこには居なかった
消えてしまった文珠に浮かんでいた文字は

——いかい異界——

青年の新たな戦いの日々が始まる

プロローグ（後書き）

誤字、脱字があれば連絡ください
勢いで書いたのでいつブレーキがかかるかわかりませんがよろしくおねがいします

主人公設定

名前 銀陸しろがね

年齢 連載開始18

容姿 腰まで伸びた銀髪に金色の瞳をしている
容姿は上の中

性格 かなり楽観的、基本的に自分の為にしか動かないが
仲間の為なら命もかけられる

好きなもの 仲間 雲 星空

嫌いなもの 仲間を傷つける奴 虫

趣味 読書（伝説や神話） 料理

能力

霊能力

変化 タマモと同じで姿を変えられる

具現 霊力を物質化できる

蒐集 自然に在る霊力を集められ、霊力を札や武器に溜め込むことが出来る

備考

銀家は古くは霊能力者の名家だったが、代を重ねるごとに力が衰え、衰退した、近年は家系が霊能力者ということも忘れ去られていたが突然、強い霊力を宿す子供が生まれた

それが陸だった

霊能力者の家系だが、長い歴史で知識は失われ、制御方法もわからず

古くからの付き合いのある六道家にあずけられた

その為に周りに知り合いは六道親子とメイドしか居ない

いつも近くに六道家の長女、冥子がいた為に暴走に巻き込まれ回避能力と防御能力はかなり高い

高校入学と同時に六道事務所の手伝いをしていた為、横島達と知り合った

高校は六道女学院の霊能科、六道当主の陰謀

あとの詳しいことは外伝で書く予定

霊能力は変化と具現、銀家、固有能力の蒐集を持っている

齊天大聖の修行で変化は能力をほぼコピーでき

具現は自然界のものや式神も創れるようになった

戦闘方法は具現で創った武器や札を使い戦う

本気になったら霊力を込めた武器と札を使う

主人公設定（後書き）

投稿しようとして確認にいったら上書き忘れていて1/3が消えた・
・・・

勢いで書いたから、能力や性格は決めていたがバックストーリーは
考えていなかった為に書くのにかなり苦労しました
ギャグ系にする気がシリアス文面に・・・
本編からは明るくしたい

異世界！遭遇！！その名も紅き翼！！！（前書き）

書き方を変えてみました

これからも応援、お願いします

異世界！遭遇！！その名も紅き翼！！！！

陸side

今、俺はどこにいるんだろう。

文珠を使った後に見えたのは

見渡す限り、なにもない世界・・・

あの天使もいなくなっていた。

横島達は無事であろうか、大物は引き受けたが

かなりの数、いたからな。まあ、あいつの事だ。

しぶとく生き抜くだろう。彼女の為に・・・

何もない世界を漂って、何分、何時間たったか、わからない。

俺はここで、死ぬのだろうか・・・

周りを見回すと、一箇所だけ、他と違う場所がある。

俺は背中に翼を創り、そこへ向かった。

そこに、在ったのは文字らしきものが刻まれた大きな石柱だった。
俺はそれに触れようとすると文字が光だし、頭に激痛が走った。
頭にとてつもないほどの情報が入ってくる。

仲間と共に荒波に立ち向かう、麦わら帽子の海賊

辛い運命を背負いながらも、努力し、前に進む金髪の忍者

苦難の道と知りながらも進む、十を救おうとする魔術師

吸血姫を守るために、闇を歩む殺人鬼

家族や友を守るため、戦う死神代行

記憶を無くし、手の届く範囲を救う不幸な青年

家族を創る為に手足や体を無くし、奇跡の石を探す兄弟

特殊な右目に持つ、運命と戦う若社長

愛する人や友を守る為、己を鍛える臆病な武術家

そこで俺の意識は途絶えた。

— 陸Side out —

俺の名は、ナギ・スプリングフィールド
俺たち、紅き翼は戦争に参加しようと、戦場に向かう途中に
いきなり、空から、傷だらけに男が落ちてきた。
アルが治療して、今は穏やかに寝ている。

ナギ「アル、詠春、この男どう思う。」

アル「さう、私は分かりませんね。」

ただ、戦闘から逃げてきたかも知れませんが。」

詠春「俺もその意見に賛成だ。」

この近くで敵がいるかも知れん。

警戒した方がいい。」

ナギ「じゃあ、アルが看病

俺と詠春が警戒だな。」

俺らが行動を開始しようとした時に

陸 「……………うつ……………ここは。」

男が起き上がった

——ナギSide out——

——陸Side——

俺が目を覚ますと目の前に三人の男がいた。

ナギ「お、気がついたか、びつくりしたぞ。

いきなり、空から傷だらけで落ちてきて。」

アル「そうですよ。私たちが、近くにいなかったら

死んでいたかも知れませんかよ。

傷は私が治療しました。」

赤髪の少年とフードをかぶった男の言葉を聴き

体を見ると傷が消えていた。
上半身は起こし、お礼をいった。

陸 「それは、すまない。それと助けてくれてありがとう。
あとここはどこだ。」

詠春 「ここはシルチス亜大陸。
なぜ傷だらけでこんな所に。
それにあなたは何者だ。」

眼鏡をかけた男は警戒した眼差しで俺を見ている

陸 「傷は敵と戦った時に
あと何者かは
あなた方の名を覚えてくれないか。」

俺の話を聞くと赤い髪の少年が立ち上がり

ナギ 「まずは俺から
俺の名はナギ・スプリングフィールド。
サウザントマスター
人呼んで千の呪文の男「自称ですよ」うっせいぞ、アル
アラルフラ
そしてこの紅き翼のリーダーだ。」

ナギが言い終わるとフードを被った男が立ち上がった

アル「次は私ですね

私の名前はアルビレオ・イマ。気軽にアルと言ってください
ナギの魔法使い^{ミニステル・マギ}の従者をしています
趣味は他人の人生の収集です。」

アルは最後の一言にその笑顔が怪しい要注意だな
最後に眼鏡をかけた男が立ち上がり

詠春「最後は俺だな

名は青山詠春

わけあった紅き翼に参加している
それであなたの事を聞かせてもらおう。」

俺は詠春が言い終わると立ち上がり自己紹介を始めた

陸「俺の名は銀陸

仲間から敵を引き付ける為に転移して来た
一言で俺を言い表すとすると
異世界人だな。」

俺の言葉を聴くとアルと詠春は目をまるくし
ナギは笑顔でこう言った

ナギ「俺たちの仲間になれ」

陸・詠春「えええええ」

アル「うふふふ」

俺と詠春が驚いている中、アルは不適の笑みを浮かべていた

異世界！遭遇！！その名も紅き翼！！！（後書き）

なんとか書けました

書き方を変えて少し書きにくかったです

思ったより時間もかかりました

より良い作品の為に頑張っていきます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8210/>

異世界に落ちた霊能力者

2011年4月13日13時52分発行